

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	一般社団法人つばさ 小川事業所		
○保護者評価実施期間	令和 7年 1月 31日		～ 令和 7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44人	(回答者数) 24人
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 1日		～ 令和 7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 11日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間は、こどもにわかりやすく、構造化しており、こども達の活動に合わせた空間となっている。園庭もあり、室内・戸外の活動の組み合わせができる。	視覚支援を有効的に使い、指示が入りやすく、行動がスムーズに起こせるよう、都度環境調整をおこなっている。	室内外の整理整頓を徹底し、視覚刺激、聴覚刺激を可能な限り減らし、誰もが過ごしやすいようにしていく。
2	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、定期的な面談ではニーズや課題を客観的に分析し、個別支援計画を作成する際に、児発管および職員間で共通理解を図っている。	こどもの状況、メンバー構成に合わせて、個別活動と小集団活動を適宜組み合わせ、一人ひとりに丁寧な関わりをしている。	こどもの成長、発達について、定期的に保護者と確認し合うことを徹底していく。
3	職員の資質向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されており、質の高い療育を目指している。	資質向上に必要な外部研修に積極的に参加したり、ケース検討を実施し、相談したり助言したりする機会を設けている。新入職員には日々の振り返りにOJT研修を取り入れている。	保育士、作業療法士、言語聴覚士、児童指導員として、それぞれ専門性を高め、多角的なアプローチをする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流機会、きょうだい同士の交流機会が少なく、家族支援が不十分である。	父母の会、保護者会が組織化されていない。 きょうだい向けのイベント開催がなされていない。	運動会や療育参観を実施しているが、さらに参加しやすい曜日や時間帯、内容等、保護者の意向を取り入れ、交流機会を増やしていきたい。一つの案として茶話会を取り入れ保護者同士の交流機会をつくる。
2	地域に開かれた事業運営を目指しているが、地域住民を招待する機会が持っていない。	事業所の行事内容に、地域住民を招待する機会がない。	地域の方にたくさん足を運んでもらえるような、行事設定を考えていく。
3	家族に対して、家族支援プログラム・家族等も参加できる研修会・情報提供の機会等が少ない。	多忙な保護者が多く、日時の設定に苦慮する。	ペアレントトレーニングなど家族参加の研修機会を検討したい。例えば、親子参加型の行事を予定し、内容に研修を入れる。